文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」　指定校　北海道厚岸翔洋高等学校

マイスター・ハイスクールだより

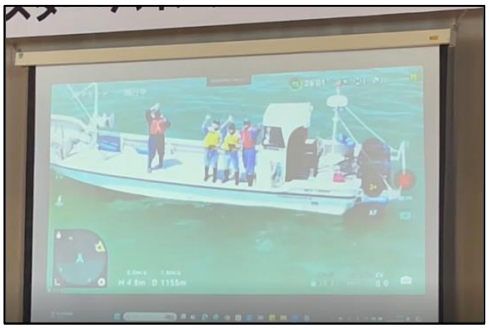
北海道教育庁
学校教育局高校教育課
［令和６年度第１号］
Ｒ６．７.23発行

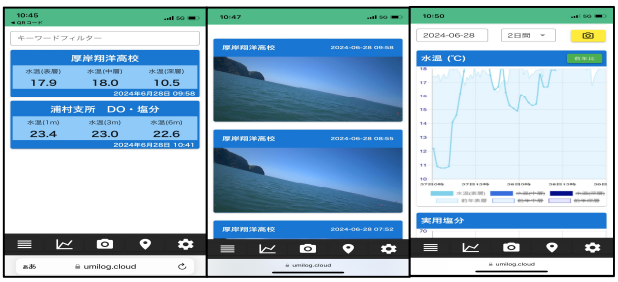
令和６年度　第１回マイスター・ハイスクール運営委員会を開催

６月28日(金)、北海道厚岸翔洋高等学校において、第１回運営委員会を開催しました。
開会に当たり、委員長の若狭町長は、「これまで２年間、貴重な取組・実践が行われるとともに、生徒も立派に活躍してきた。最終年度を迎えるに当たり、活発な協議をお願いしたい」と挨拶がありました。委員会では、山本校長から、２年間の事業の成果と課題、最終年度の事業計画等について説明した後、空中ドローンによる海上の実習現場の映像や、生徒会が中心となって制作したPR動画を視聴したほか、本校が厚岸湾に設置している海洋観測機器と、各委員のスマートフォン等の端末を接続して、観測データを確認する方法が紹介されました。

挨拶をする若狭委員長

運営委員会の様子


実習現場を空中ドローンで中継



海洋観測機器による観測データや映像(各委員の端末で確認)

生徒会が中心となって制作したPR動画の1コマ

山本校長による説明

＜2年次まで＞　～3つの柱に加え、新たに「事業成果の発信」に取り組む～

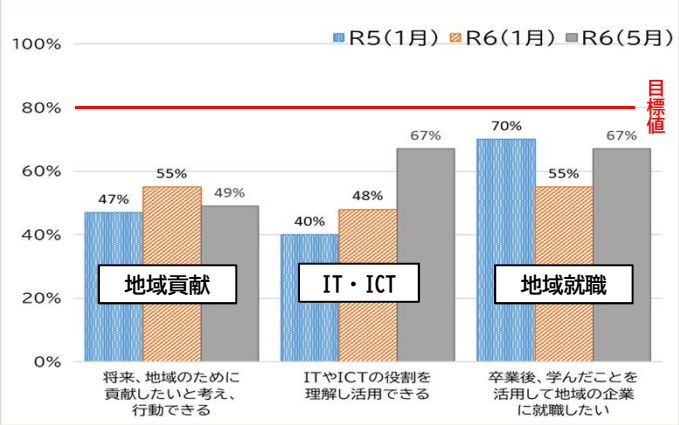
柱１ 水産資源の持続化に向けた取組	端末による海洋環境の把握をした上で、実習に臨むことができるようになった。
柱２　漁家経営の持続化に向けた取組	海洋観測装置や水中・空中ドローンについて、有効な活用法を模索するとともに、意見交換を重ね、漁業者にも活用を広げることができた。
柱３　地域産業の持続化に向けた取組	地域や企業の支援のもと、アメマス（未利用魚・低利用魚）活用による揚げかまぼこの販売、牡蠣（特産物）PRの全道展開ができた。
柱４　事業成果の発信 *NEW！* に関する取組	PR・周知活動を行うため、スマートTVを活用した、厚岸のPR動画の制作や厚岸湾の海況データの発信方法の検討に着手した。

＜3年次の課題と事業計画＞　～周知活動(方法)の充実と自走後の海洋観測装置の維持～

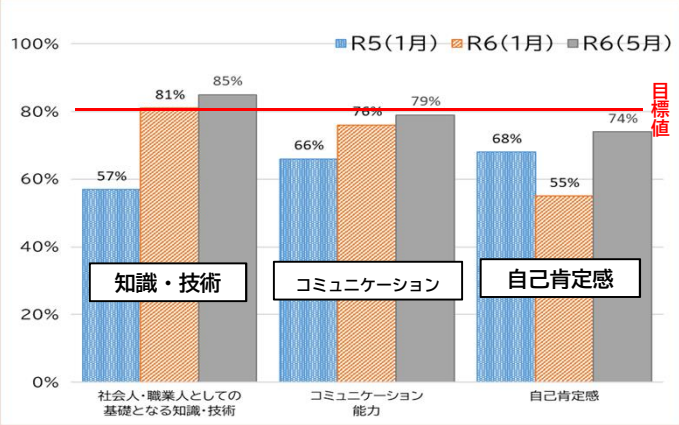
- 事業成果を学びに結び付ける、学校設定科目「LLマリン」(仮)(水産業に関する最新の学び)導入
- ドローンの許可、申請について法改正への対応
- スマートTVを活用した本校の取組発信、本事業の有効性の発信
- 漁業者の協力のもと、海洋観測装置を用いた厚岸湾の調査
- 未利用魚商品のブラッシュアップと販路模索、特産物による新商品の開発、厚岸町のPR
- 生徒の達成感、自己肯定感の育成
- 事業終了後の海洋観測装置の運用方法（維持費用）の検討
- 将来、スマート漁業や水産物の高付加価値化を推進するキーとなる地域の人材の育成

説明する山本校長

＜定量的目標に関する主な評価結果＞



＜定性的目標に関する主な評価結果＞



【評価方法】全校生徒を対象にアンケートを実施し、「大いにあてはまる」、「あてはまる」の回答を肯定的な評価として捉え、その割合の変化で達成度や習得度を測定

- 「地域貢献」の項目でやや低下（-6P）
- 課題であった「IT・ICT」の項目については、大きく上昇（+19P）
- 「地域就職」の項目が改善（+12P）

- 「知識・技術」の項目は目標値維持（＋4P）
- 「コミュニケーション」の項目については、ほぼ目標値
- 課題であった「自己肯定感」の項目が改善（+19P）

運営委員からの助言・感想等

○　「事業成果の普及に関する取組」については、さらに全道に普及し、産業従事者にも知っていただき、普及できるような取組としてほしい。　【行　政】
○　ICT化やデジタル化によるデータに基づいた、ものの捉え方や発想があるということを示してもらうことは、水産業だけではなく、他の産業界にとっても参考になると感じた。　【産業界】
○　未利用魚・低利用魚、厚岸産特産物を活用した商品開発により、食の観光素材をアピールできると思うので、町内飲食店でのメニュー化に向けて取り組んでほしい。　【産業界】
○　自走化に向けて、海洋観測機器の校正や通信センサーの更新などの費用の捻出方法について検討していき、取組が３年間で途切れることのないように進めていってほしい。　【行　政】
○　自走化に向けて、３年間、蓄積した成果をもとに、生徒の学びも持続可能となるよう、教育課程の更なる改善・充実を図っていただきたい。　【行　政】
○　生徒が、地元の産業に興味をもってもらう上でも、外部への成果の発表は重要。商品開発や販売、調査などについて、興味をもって取り組む生徒の育成がなされていると感じた。　【行　政】
○　学校の中で完結するのではなく、実際に、漁業者の方々と話をしながら取組を進めているということは、着実に成果につながっていくものと期待する。　【行　政】
○　教育だけではなく、社会全体がAIやICTの時代を迎えるなか、厚岸翔洋高校では、一歩進んだ教育ができており、１年後の成果を期待する。　【行　政】

ICTを活用した教育活動による情報の普及

説明をする長谷川教頭と飯田教諭

端末を用いた、海洋観測装置のデータ確認方法についての説明のなかで、飯田教諭から、「パスワードを広めていただき、ぜひ各所で活用してほしい」と話があった。

［URL］　https://umilog.cloud
［アカウント］　aksy-hi1234
［パスワード］　aksy-hi1234

海洋観測装置の二次元コード